

第1回 東三河まち・ひと・しごと創生総合戦略推進協議会

議事録

日時 平成28年10月20日（木）

午後3時00分から4時30分まで

場所 豊橋市職員会館3階301会議室

■次 第

1. あいさつ
2. 委員の紹介等
3. 議事

東三河人口ビジョン(案)、東三河まち・ひと・しごと創生総合戦略骨子(案)について

■発言要旨

発言者	要旨
松井会長	・ 広域連合として総合戦略を策定することとなるので、個々の市町村で行うよりも広域で行うことで効果が見込まれること、広域でやるべきことを意識してご意見をいただきたいと思う。
神谷委員	・ 市町村それぞれが策定している総合戦略は、協力して何かやろうというのが見えない。 ・ 行政だと KPI（重要業績評価指標）だが、企業では一般的に KGI（重要目標達成指標）で成果を測っている。
小林委員	・ 成果を測るためには、理想として達成率を出さないといけない。しかしながら市町村の総合戦略をみると、結果ありきの数値が設定されていると感じる。
松井会長	・ 平成31年度まで PDCA を回し、そのための指標が必要となる。成果を測る指標としては、KPI ではなく、KGI とすべきとしたい。
高橋委員	・ KPI は実情に合わせて毎年見直していけばよい。達成したらまた考えていけばよい。

小林委員	・達成したらまた変えていくということであれば、達成率でいいのではないか。
神谷委員	・広域連合が総合戦略を打ち出していくときに、各市町村がやろうとしていることができなくなっているといけない。
高橋委員	・広域連合として策定する総合戦略は、全国、世界に向けたものでなければいけない。具体的に進められる事業を1つでも詰めていくという考え方が大事である。
松井会長	・4つの基本目標を絞ったほうがよいということか。
高橋委員	・4つ基本目標に位置づけながら、濃淡の具合で書きぶりをかえていけばよい。冊子ができた上で、戦略プラン、重点プランなどを策定してもよい。
安彦委員	・新東名開通により、名古屋などから多くの人が来ているが、それに対応できる人がいない。ハローワークに載せても集まらない。一概に観光客を増やすという考えだけではいけないと。 ・奥三河 DMO を今年度中に立ち上げるといってスタートしているが、行政主体となっているところに難しさがある。東三河 DMO に関しては、大きな観光事業者など行政ではないところが中心となってやっていかなければいけない。 ・「地域おこし協力隊」は、地域に入ってがんばっているのに、3年たったら国の支援がなくなってしまう制度である。I ターンなどで来て、地域のために働いているので、こうした人たちを地域で受け入れなければいけない。
小林委員	・宿泊地などもあるので、観光ルートを作り、東三河全体で発信していけば、集客もできる。 ・東三河の農産物などによる地域ブランドを作ることが大きな道筋である。 ・生産年齢人口をどう増やしていくかが重要である。首都圏など地域外から、学生はほとんど来ない。地元企業が積極的に PR していないためなのか、学生たちは東三河地域の企業を知らない。 ・若者が帰ってきて働くという場を作るという意味では、企業誘致も一つの視点である。
高瀬委員	・観光地はあっても道路がなければ伸びていかない。

	・農家の跡取りがいない。子供がいても親が農家にさせないと農業も衰退していく。
瀬野委員	・人を確保するためには、東三河全体の中でシミュレーションする必要がある。また、それぞれの市町村と同じ事をやっていたはいけない。 ・地域外に行きたい人を止めるためには、まず若い世代を中心に考えることが必要である。また、人はその地で働いて生活しているため、生活していくためにどんなことをしたらよいか考えることも必要である。企業誘致の視点だけに偏ってもいけない。
石川委員	・地方創生に一番大切なことは雇用の確保である。東三河にはオンリーワンの企業がたくさんあるが知られていない。地域外へ出ていった学生も、優れた企業があることを知らなければ戻って来ない。 ・企業は出前事業をやり始めている。一つの自治体でやるよりも東三河全体として取り組んでいくような仕組みを作って、東三河の優れた企業を知ってもらうべきである。
松井会長	・東三河地域ブランドの創出とあるが、地域にある、世界に光った企業をブランド化するということは「広域」ならではないかと思う。
鈴木委員	・KGI が必要。何もしないでも到達するような数値は目標数値ではない。 ・想定される取り組みにおいて、具体的にどうやるか、どの方法でやると効果的に行えるかなどしっかり考えてから取り組まなければいけない。 ・市町村が取り組むものの、さらにその上をいくものを考えていかなければ目標は達成されない。 ・企業の紹介だけで本当に人が来るかどうかは疑問である。この地域の生活観、物価の安さ、心地よいまちだということもアピールしていかなければいけない。
松井会長	・「企業」「生活観」という視点は、今後の取り組みを考える上でキーワードになると思う。 ・次回は想定される取り組みを具体化し、議論できる会議にしていければと思う。

石川委員	・若い女性に視点を置くことが課題となっているが、その施策がないのではないか。
安彦委員	・「もっくる新城」に来場する車のうち、42%は豊橋ナンバーである。地域内交流も大切にすべきである。
松井会長	・地域内で如何にお金を回すかということも大事である。 ・次回は、広域でしかできないこと、広域で取り組むべきことなど、具体的に詰めていきたい。